

セッション E 歯科における睡眠医学（トヨタ記念病院 歯科口腔外科 山本 知由）

5 演題での発表・聴講は発表関係者+α(8~十数人くらい)で説明と質疑・応答が行われました。

2 演題が医師からの発表(小児科と呼吸器科)、3 演題が歯科医師からの発表でした。

CPAP は現在 SAS に対しスタンダードの治療法ですが、それ以外で小児への治療にどうかかわれるのか、また、いかに CPAP 脱落者を救うことができるのか、さらに OA 治療をどのように病院内に根付かせるのか等、今後の SAS 治療に対する意見が種々の立場から出されました。

今後の SAS 治療において口腔外科、歯科を含めた連携治療を行っていかねばならないため、口腔外科や歯科以外からもこのような多くの発表、意見があったことは喜ばしいことだと感じました。

しかし、座長としての感想ですが、やはり、OSAS の治療の主流は CPAP であることから、実際の診療で見過ごされがちな分野であるからなのかもしれませんが、他のセッションに比べて聴講者が少ないと感じました。

OSAS の治療と直結する内容ですので、実地で取り組んでいる人々が意見や工夫を出し合う場であってほしいと思います。確かにいろいろと課題が多く、解らないことが多い分野ではありますが、少しずつ進めていければ良いなと感じられたセッションでした。

演題番号	演題名	演者	演者所属
E-1	口腔内歯科装具治療後中枢型無呼吸を認めた閉塞型睡眠時無呼吸症候群の一例	大西 徳信	天理市立病院
E-2	歯科が糖尿病教育入院と睡眠医療に関わる役割	田村 仁孝	小松病院 歯科口腔外科
E-3	当科における閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置治療の現状と問題点	久保 州敬	大阪歯科大学付属病院 口腔外科学第二講座
E-4	小児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群と肥満度・顎形態の関係	加藤 久美	大阪大学大学院医学系研究科 子どものころの分子統御機構研究センター
E-5	睡眠時無呼吸症候群患者の呼吸イベント後の覚醒応答に対する咀嚼筋・四肢筋活動の発現様相について	片瀬 剛士	松本歯科大学大学院 顎口腔機能制御学講座